

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200335		
法人名	有限会社 てらだ苑		
事業所名	グループホーム さん愛		
所在地	〒822-1406 福岡県田川郡香春町大字香春1660番地1 TEL 0947-45-1303		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 5 日	評価結果確定日	平成 22年 12月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成22年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に「より愛・ふれ愛・たすけ愛」と掲げ、毎月家族にさん愛の新聞や行事の案内を送り日頃より、家族と利用者様とが、共に過ごせる機会を多く持って頂けるように働きかけています。また、利用者様が1人ひとりがその人らしく過ごせるような雰囲気作りや環境を整え、安らぎと心地よさを感じてもらえるよう、職員全員が日々精進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさん愛は、四季折々の表情を見せる香春岳を見渡す田園地帯の中にあり、広い敷地の中には、地域の方と、利用者が一緒に入れる大型の足湯や、グランドゴルフ場があり、憩いの場として、交流の輪が広がっている。「より愛、ふれ愛、たすけ愛」という三愛を掲げ、オーナー、施設長、職員が利用者一人ひとりの思いを大切に、同じ目線で支え合う光景は、優しさに満ち溢れ、家族の信頼も深いものがある。自慢の畑で採れる作物は、料理の食材として活用し、利用者と職員が一緒に調理し、食べる味は格別のものがある。また、音楽療法を毎週実施し、小学生の体験学習と並び、利用者の楽しみのひとつである。管理者と職員のチームワークは、医療、介護、家族との連絡等、実に緻密で、利用者の自立支援に向けて、職員全員で努力する姿勢が素晴らしいさん愛である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一人として、その人らしく生活が営めるよう常に意識してケアにあたっている。	家庭的な環境の下で、安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営むこと、また住み慣れた地域で自分らしく生き生きと過ごせるよう支援することを理念に掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、老人会や小学生との交流会も盛んに行っている。運営推進会議等を活用し意見交流に努めている。	町内会に加入し、清掃活動などに参加している。ホーム主催の夏祭り、グランドゴルフ大会に地域の方を招き足湯を開放するなど交流を図っている。また、近隣の小学生がホームに訪れた「ふれあい体験」では、子供たちと一緒におはじきやめんこで楽しそうに遊ぶ利用者の姿が見られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方や高齢者のいる家庭からの相談や心配事があるときは、いつでも話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者家族の参加により、2ヶ月に1回開催し、活動報告や意見等からサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族、地域の人、行政の参加により行われている。会議では、現状報告、ケア記録の閲覧の他、その時々々の議題に基づいて活発な意見交換が行われている。家族の参加が多い事から、ホームの運営に関する積極的な姿勢が伺われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った時には、電話等で連絡し意見を聞いている。	ホームの取り組みについて情報提供したり、困難事項の相談を行ったり、市町村との協力関係構築に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・抑制をしない事が当たり前と認識し、実践している。会議において周知するように話している。	身体拘束廃止マニュアルに基づいて勉強会を行い、身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対し尊厳を大事にし、身体の暴力・虐待は勿論の事、言葉の暴力もしないようその防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修を通じて、学ぶ機会があり必要な方には、活用出来る様支援している。	権利擁護に関する資料を揃え、勉強会を行い、管理者、職員が必要に応じて利用者、家族に説明し、関係機関に橋渡しをする支援体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、十分な説明を行っており、利用者やその家族とは、電話連絡も行い不安や疑問があれば、気軽に話が出来るような環境作りをしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不安・不満・意見が言いやすい雰囲気や環境作りを行い、傾聴を心がけている。玄関には、意見箱を設置して意見・要望等を記入してもらうようにしている。	各ユニットの玄関には意見箱が置かれ、時々利用者の「〇〇が食べたい」といった要望が入っている。家族の面会が多く、また、運営推進会議への家族の参加も多いため、管理者、職員はそういった機会を逃さず、コミュニケーションをとりながら、意見、要望を聞き取る努力をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、意見・要望等は聴き皆が働きやすい様な環境作りを行っている。	月に一度の職員会議には、職員全員が参加し、活発に意見や提案を出し合い、出された意見はできるだけホームの運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員の働きやすい環境を作り、個々の職員に対し、能力・実績に対する評価を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々の職員に対し、1人ひとりの能力が活かせる様注意深く見守り、職員が働きやすい環境をと整えている。	職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別で区別することはない。事業所で働く職員については、勤務ローテーションの配慮を行い、一人ひとりの得意分野での力(絵、パソコン、料理など)を発揮してもらい、生き生きと働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者1人ひとりに安心・尊厳ある生活を提供するため、その関わる職員の意識の向上を図る為、勉強会を行っている。	人権に関する勉強会で人権についての意識付けを行い、利用者の尊厳の守られた生活を実現するために日々取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを見定め、段階に合わせた研修に参加できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の状態を把握し、個人を理解しながら接する意見を取り込み尊重しながら、安らぎのある生活を保てるようにする。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族によっては言いにくいとある会話が必要の為に来所時は時間をかけ傾聴し、一緒に改善していく。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に要望や必要としている事に対し、職員が本人の状況に基づき他の利用などを採り入れながら説明している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の始まりから一緒に過ごす事で、出来る事は行ってもらい、馴染みの関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題があれば、家族と一緒に考え利用者にとって良い方法を探しながら支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方の来苑を家族に依頼したり、思い出の場所に外出したりしている。	馴染みの方が来やすいような雰囲気作りを心がけ、また、本人の行きつけの場所への外出を家族と共に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの困難な方は、職員が中に入り他所と交流が出来るよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、いつでも相談できるよう声掛けや、手紙等を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し話し合いで、希望に添えるようにする。	入居年数の長い利用者が多く、また、職員も定期的にユニット間の入れ替えの異動を行うことで、二つのユニットの利用者とも馴染みの関係を築き、日々の関わりのなかで声を掛け、利用者一人ひとりの思いや意向を把握しやすい環境作りに努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や医療機関からの情報提供から、その方に合った支援を考えていく。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が個人の小さな情報でも伝達し合い把握する。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度のモニタリングの他に状態の変化等必要に応じて話し合いを行い介護計画に反映させている。	利用者、家族の意見、希望を大切にしながら、主治医、関係者と話し合い、それぞれの気づきや意見を反映し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。計画は3ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合はその都度対応している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成し日々の生活や身体状況を記録し利用者の状態を把握し計画に反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四肢の疼痛を訴えマッサージを希望する方に訪問マッサージの利用を手配する等必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生を招き交流会を行う等、地域の方々と接する機会を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病歴は勿論、状態把握を行ったうえで、利用者またはご家族の希望に添えるような援助を行っている。	利用者、家族の希望を大切に、家族と相談しながら、かかりつけ医の受診を支援している。また、月に2回の提携医の往診、週に1回の訪問歯科、訪問看護の利用など、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気になる事や不安に思う事は看護職員に常時報告相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合主治医、ご家族、病棟の看護師等との連携を図りながら早期退院出来る様努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の過ごし方について、本人やご家族と相談説明も十分に行っている。	利用者、家族にとって何が一番良い支援なのかを考え、本人、家族、関係者で話し合い、重度化や終末期に向けた指針を作成し、共有しながら支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応についてマニュアルを作成し職員の理解を深めている。また定例会議でひやりハット報告書をもとに予防策を検討している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、マニュアルも作成している。また、緊急時の連絡体制も整えている。	マニュアルを作成し、緊急時の連絡体制、避難経路を確認しながら、夜間を想定した場合も含め、避難訓練を実施している。また、災害時に備えて、飲料水、非常食などの備蓄も万全である。	ホームだけの訓練ではなく、地域住民の協力を得ながらの避難訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人的な事柄には個別に対応し自尊心を傷つけないよう言葉や態度に気をつけている。また、守秘義務を厳守している。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら、優しい言葉掛けやさりげない誘導を実践している。また、利用者の情報の取り扱いについても守秘義務を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには必ず足を止め常に目線に合わせて話を聞き対応している。小さな事でも一緒に考え一緒に解決している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の流れはあるが、利用者のニーズを優先し、常に利用者のペースに合わせて毎日支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の好みや選択は、利用者の希望に合わせて職員と一緒にしている。特に、外出時や行事の時はおしゃれに気を配っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や配膳や下膳が出来る利用者は、職員と一緒に怪我がない様、声掛けや見守りを行っている。	料理が得意な職員を中心に、ホームの菜園で採れた野菜を利用しながら作られた食事は、野菜中心で品数も多く、美味しく格別のものである。利用者と職員は、同じテーブルで一緒に家族的な雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は必ず記録している。食事の摂取量には、個人差や体調等で変動はあるが、個々の状態に合わせて食事の形態を変更したり、献立を工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の洗浄を行っているが、自己にて出来ない利用者には、傍についでの声掛けや一部介助にて洗浄をしている為口腔内の清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、汚染を減少出来る様、声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表や水分量を見て、利用者一人ひとりのパターンを把握し、細やかに声掛けや誘導することで排泄の自立に向けた支援を行っている。また、夜間はゆっくり休んでいたけりよう、紙オムツ、パット類を工夫し、本人に合わせた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便コントロールが、困難であり食事・服薬・水分摂取等で様子を観ながら、主治医に相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の頻度や時間など利用者のニーズに合わせ支援している。	入浴は基本的には週3回であるが、利用者の希望によっては毎日でも入浴できる。入浴を拒否される方に対しては、会話などで気分転換を図りながらタイミングを工夫するなどして、入浴していただけるよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個々のニーズに合わせて環境整備を行うと共に利用者が安心・安楽で過ごせる様心配りを行いながら支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の処方箋は薬ケースに保管しており、職員がいつでも確認できる様にしている。体調の変動や急変時にも直ぐに対応できる様に、常に注意を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や習い事を取り入れ、興味がある利用者は積極的に参加している。又、その他の利用者も見学し気分転換を図っている。一人ひとりに合わせ色々なレク等を計画している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑外を散歩したり、花見やドライブなどを行い季節感を肌で感じたり、気分転換を図っている。又、外出を好まない利用者には、職員と一緒に苑庭で散歩したり、テラスで日光浴を楽しまれている。	広い足湯、グランドゴルフ場、菜園など、ホームの広い敷地を活かした屋外活動が日常的に戸外の空気に触れる機会となっている。また、買物、季節毎の外出、ドライブなど定期的に行い、戸外へ出ることを積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る利用者は、ADLの低下を防ぐ為に所持し使用出来る様、職員は確認している。困難な方は家族の承諾のもと本人様の希望に応じて買物を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との関わり合いを大切に、本人様希望により、いつでも連絡が取れる様支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今でも日常生活を安心して過ごせるように住み慣れた空間作りや壁画・置物・花等で工夫し、四季を感じられる様に行っている。毎日換気を行い外の風を肌で感じて頂くようにしている。	ホームの壁には、利用者の楽しそうな笑顔の写真や季節の花、装飾を施し、明るく温かみを感じる共用空間となっている。リビングに続くウッドデッキでは、ホームで飼われている愛犬が、家族の一員として大切にされ、利用者の気持ちを和ませている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが、安心して過ごせる場所があり、個人または他者と会話を楽しめる様、廊下等に、椅子を設置しリラックス出来る雰囲気作りをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、家族・利用者に日常使用していた物を持参して頂くよう声掛けを行っている。入居後は家族・利用者の意見を取り入れ過ごしやすい様にしている。	家族と相談しながら、出来るだけ自宅の部屋を再現できるよう馴染みのものを持ち込んでもらい、壁には利用者手作りの貼り絵やお孫さんの写真を飾り、居心地良く穏やかに過ごせる様工夫されている。また、なかには仏壇を持ち込まれ大切にお世話をされている利用者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力・理解力に応じ、妨げや危険を伴うものは移動し安全を重視し個々の意欲向上を図る様にスタッフは利用者の状態を把握し支援している。		